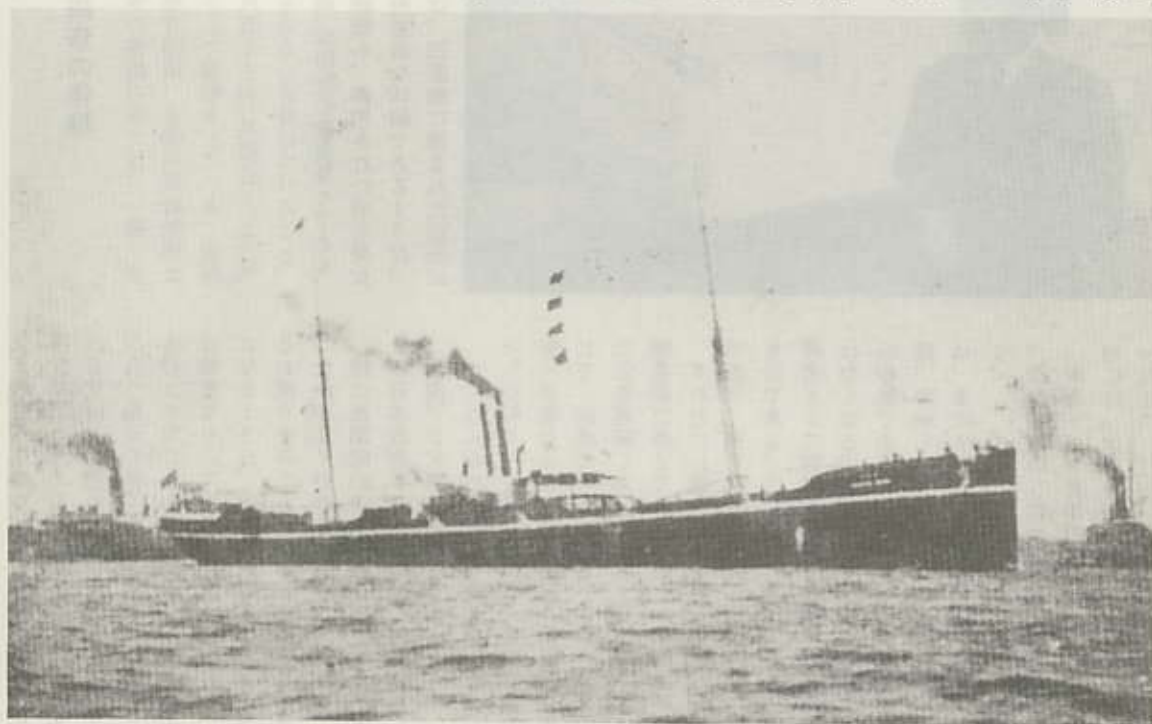


佐 倉 丸

〔主要目〕貨客船、日本郵船所属、2,953総トン、主機三連成レシプロ1基、速力12ノット、1887年英国エイトケン&マンセル造船所建造、前名モガール MOGUL

ペルー移住の第一船となり

旅順港閉塞作戦で自沈



南米に日系人大統領が誕生

南米ペルーの大統領選挙でアルベルト・フジモリ氏が当選し、南米に初の日系人大統領が誕生したニュースは、記憶に新しい。明治以来の移住先であった中南米諸国における最近の日系二、三世のめざましい活躍ぶりからみて、近い将来日系人大統領が生まれるのも夢ではないとの期待感がもたれていたが、それがこんなに早く実現するとは、だれも予想しなかったに違いない。

南米移住というتماずブラジルを連想するが、日本人の南米移住の歴史のうえで最も古いのは、ペルーへの移住である。一八九九(明治三十二)年からスタートした契約移民を中心に、半世紀の間に約二万人の日本人が移住した。現在はその二、四世の時代となり、約八万人の日系人社会が形成されている。

明治のこの時期、日本ではハワイ移住が行き詰まったことから北米への移住あるいは密航といった問題がもちあがっており、日本人発展の新天地が求められていた。その当時のペルーは、労働者が不足していたうえ、黒人移住者を受け入れないという背景があったので、この国なら日本人の食い込む余地があるとみられたのである。

初の南米移民船としてペルーへ

さて、このペルー移住の第一船として就航したが、日本郵船の「佐倉丸」である。

ペルーへの契約移民七百九十人を乗せた「佐倉丸」は、一八九九年二月二十七日に横浜を出航、四月三日にカヤオに到着した。横浜出航のときの模様を、二月二十八日付けの朝日新聞は、「ペルー初移民の出発」という見出しで次のように報じている。

森岡移民会社の募集に係る南米秘露国（ペルー）移民八百十名は、昨廿七日午後五時日本郵船会社の佐倉丸に搭載し横浜を出発した。同会社の此の初移民の行を送る為、特に港務局の許可を受け午後二時より五時迄本船間近に於て煙火（花火）数十発を打揚げ、且楽隊を聘し解纜の際奏楽せしめて……（原文のまま）

こうして盛大な見送りを受けて出発したものの、移住者たちを持ち受けていたのは、現地の苛酷な風土と生活であった。契約期限明けの四年後の時点で、「佐倉丸」による最初の移住者七百九十人のうち、なんと六百二十四人が死亡し、生存者はわずかに百六十六人を数えるにすぎなかった。

今日のペルーにおける日系人社会の繁栄のかけには、こうした一世たちの苦難の歴史が

隠されているのである。

旅順港閉塞船として壮烈な最期

この「佐倉丸」の前身は、英国船「モガール」である。一八八七（明治二十）年に英国スコットランドのグラスゴーで誕生した。船主はモガール・ライン。社名からみてインド水域で稼働していた船と思われる。

日清戦争のときに日本政府に売却され、「佐倉丸」と改名。戦後、日本郵船に払い下げられた。総トン数は約三千トンで、とくに目立った特長のない船だが、日清戦争後開設された郵船の北米航路第一船「三池丸」ですら三千三百トンの時代であったから、当時としては大型船に属していたといえよう。

「佐倉丸」の地味な船歴の中で最も華々しいのは、日露戦争中に旅順港閉塞船として自沈したその壮烈な最期である。

旅順港閉塞は、ロシア太平洋艦隊を旅順港内に封鎖するため、港口の水路に船を自沈させようと企図したもので、発案者は作戦参謀の秋山真之である。秋山は海軍武官として米國赴任中、米西戦争に研修従軍しており、米國海軍が、キューバのサンティアゴ港口に給炭船を沈めてスペイン艦隊を釘付けにした作戦を目撃した。旅順港閉塞作戦は、このときの体験がヒントになったといわれている。

旅順港閉塞作戦は、一九〇四（明治三十七）年の二月から五月にかけ三次にわたって行われ、二十一隻の船が参加した。広瀬武夫が指揮し戦死したことで有名な「福井丸」が出撃したのは二回目のものであるが、作戦規模が大きく、かつロシア側の砲撃が激しかったのは三回目である。「佐倉丸」は、この三回目の作戦に参加した十二隻のうちの一隻で、旅順閉塞船の中では最大の船であった。

第三次閉塞船隊が出撃したのは五月二日の深夜だった。単縦陣で旅順港口に接近したところ、天候が悪化したので、司令官は作戦延期を決断し発光信号を出した。だが、風波が高く信号通説が徹底しなかったため、八隻がそのまま港口に突入。港口砲台の猛烈な砲火の中で爆薬に点火し、自沈したのである。

海軍大尉白石葎江の指揮する「佐倉丸」が自沈した位置は港口の東側で、水路の片側を塞いでおり、作戦的には効果的だったが、指揮官以下全員が戦死したため戦況は分かかっていない。荒天の中で決行された第三次閉塞は、死傷者が多く、港口に突入した八隻の乗組員百五十八人のうち半数が戦死している。ペルー移住の第一船となり、日露戦争で戦没した「佐倉丸」の船歴は、まさに明治の時代性を体現しているといえる。

山田 迪生